

コロナ自宅療養者の健康観察

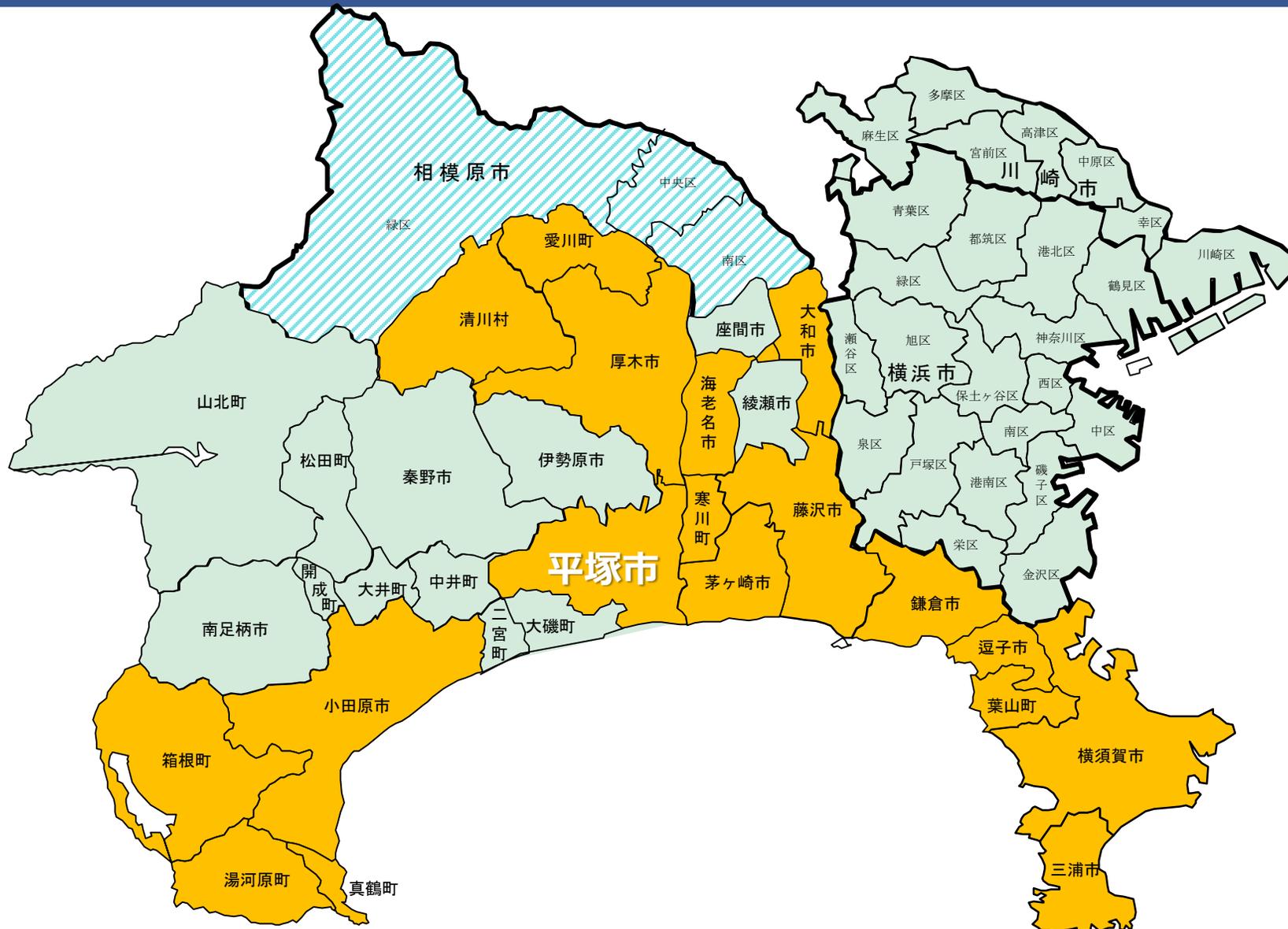
令和3年11月1日

地域療養かながわモデル 「平塚市」

平塚市医師会訪問看護ステーション 所長 真間あけみ

神奈川県訪問看護ステーション協議会 副会長

地域療養の神奈川モデル 実施エリア（11/1）



【凡例】

-  ...実施済み
-  ...実施見込
-  ...実施検討中

かながわ モデル概要

- 「医療提供体制の安定化を図る」大前提のもと、それぞれの症状に合わせた医療機関や自宅・宿泊療養施設等への搬送調整等を行うための「健康観察」を行う⇒重症化させない支援
- 平塚市医師会会長より事業開始の相談あり3月末より準備開始し7月6日事業運用
 - ・ 訪問看護の引き継ぎを開始し、受け持ちを”0”とし準備のための時間を作った
 - ・ かながわモデルを開始しているステーションより情報収集
 - ・ 医師会担当理事とかながわモデルの勉強をし平塚市医師会としての実現可能な運用思案
 - ・ 保健福祉事務所と情報交換
 - ・ 神奈川県より資料の提供と説明

協力 ステーション

- 平塚市システム会議の訪問看護部会で協力要請
 - 平塚市内に訪問看護ステーション25か所（医師会ST含む）
コロナと診断された療養者の訪問に対する不安や心配、訪問看護師として担う責務のはざままで「地域療養かながわモデル」に関心を持っていた
- 1、神奈川県医療危機対策本部室担当者⇒神奈川モデルの説明
 - 2、平塚市医師会会長⇒平塚市医師会として役割遂行と協力依頼
 - 3、平塚市医師会訪問看護ステーション⇒訪問看護ステーションの架電と訪問看護の役割、保険、報酬等の説明と質疑応答
 - 4、神奈川平塚保健福祉事務所⇒協力依頼
- ・ 会議前に平塚市内、全ステーションに連絡し説明会の参加のお願い
 - ・ 終了後にも協力のお願いの電話

事務局

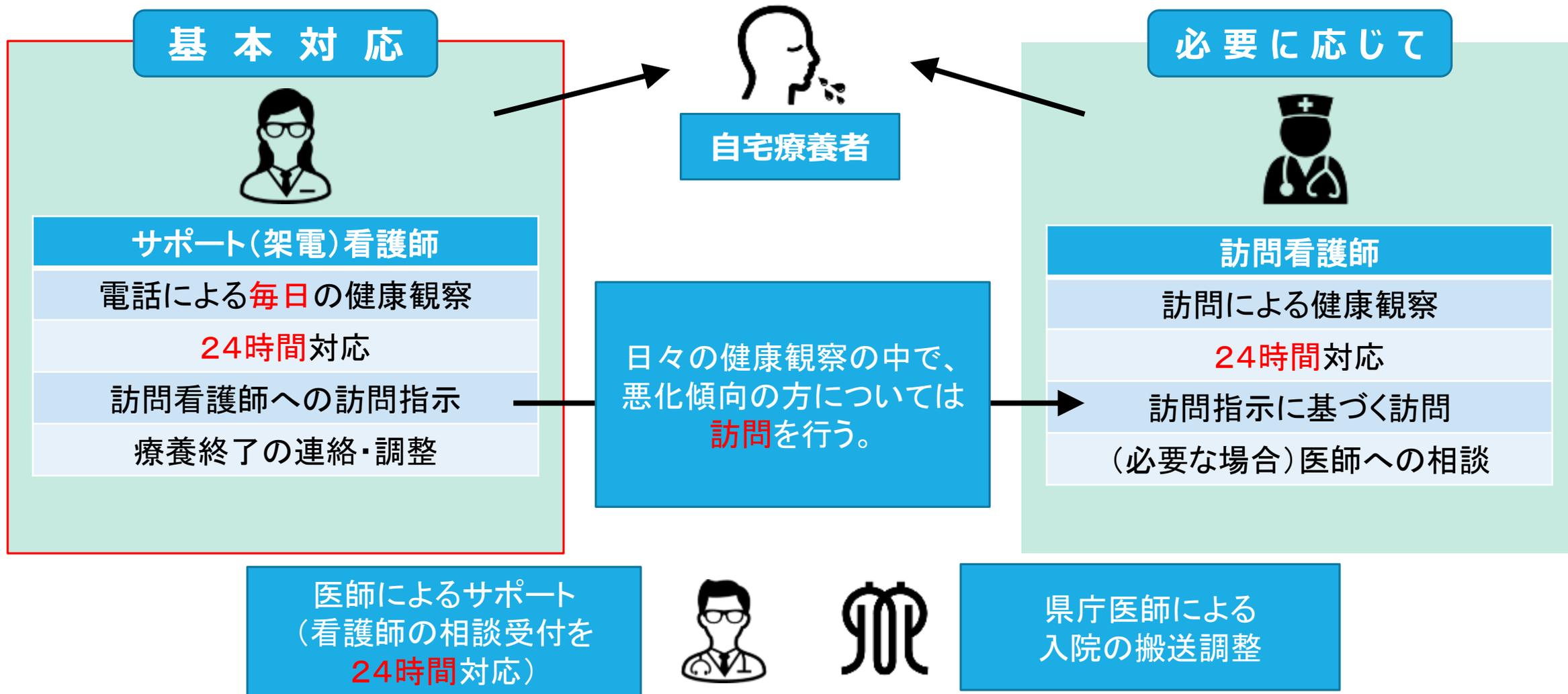
- 平塚市医師会事務局は①PCR検査②平塚市内ワクチン接種業務におわれマンパワー不足
- 平塚市医師会訪問看護ステーションで臨時事務員 2名採用
(毎日土日含む：9時～17時対応)

<業務内容>

- ①患者受託管理⇒新規療養者受託（1日2回）・ステイタス処理
- ②シフト表管理⇒医師・看護師・事務・薬剤師
- ③日報（架電担当・訪問看護担当）、月報管理、実績管理
- ④請求書：各医師、各ステーションの積算請求すり合わせ照合
⇒ 神奈川県本部提出資料の作成

「地域療養の神奈川モデル」の仕組み

電話による健康観察を基本とし、**悪化傾向の方を早めに見つける**ための訪問を計画的に行う

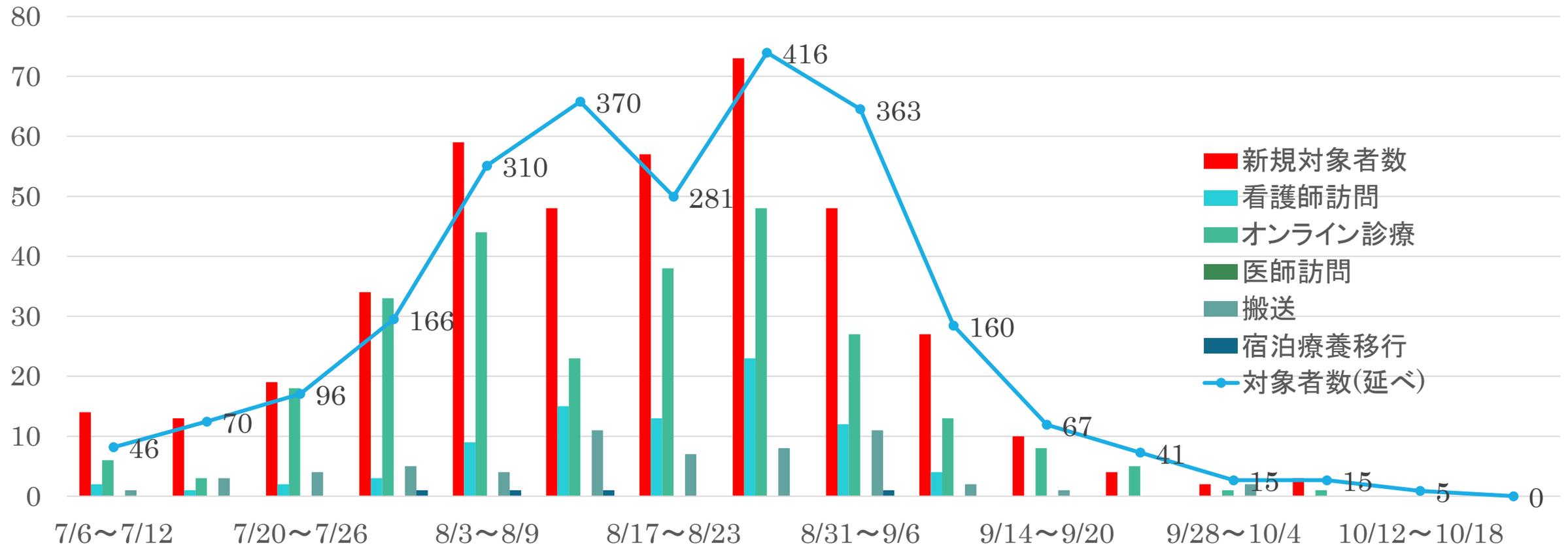


地域療養の神奈川モデル 現状報告

平塚市の実績

※数値は速報値であり、確定値ではありません

	対象者数(延べ)	新規対象者数	看護師訪問	オンライン診療	医師訪問	搬送	宿泊療養移行
7/6~10/25 (112日間)	2,421	411	84	268	0	59	4
1日平均	21.6名/日	3.7名/日	0.8件/日	2.4件/日	0.0件/日	0.5名/日	0.0件/日



(変更後)災害⇒死亡回避に特化した健康観察への転換

- 最低限の健康観察を実施。不通者には架電&訪問、療養者からの入電には対応
- 変更後のフェーズ1は、毎日体調モニタリングを行った上で、**発熱(37.5度以上)継続者には架電**して体調確認

項目	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3
対象者	スコア 3 以上 SpO2 95% 以下 入院待機者	<u>スコア 5 以上</u> SpO2 95% 以下 入院待機者	<u>スコア 5 以上</u> <u>SpO2 93% 以下</u> 入院待機者
架電	当日LINE・AIコールにて ① <u>SpO2 96% 以上→発熱継続者に架電</u> ※発熱：37.5度以上 ②SpO2 95、94%→架電し体調確認 ※負荷検査は実施 ③SpO2 93% 以下→架電しDr報告	当日LINE・AIコールにて ① <u>SpO2 96% 以上→架電なし</u> ②SpO2 95、94%→架電し体調確認 ※負荷検査は実施しない ③SpO2 93% 以下→架電しDr報告	当日LINE・AIコールで <u>SpO2 93% 以下のみ</u> 架電しDr報告
訪問	訪問要件に複数合致した案件 について実施	<u>医師相談基準に複数合致</u> した案件 のみ実施 & 医師報告	<u>SpO2 93% 以下のみ</u> 実施 & 医師報告
療養終了 連絡	<u>療養延長該当者のみ</u> 実施	<u>療養延長該当者のみ</u> 実施	<u>療養延長該当者のみ</u> 実施 (看護師判断)

※必要に応じプラスαで実施するのは可

シフト表作成

- ステーション管理者10人とスタッフ24人
 - 個々のステーションが協力できる曜日のリストから曜日調整を行い曜日担当ステーションを決定
 - 曜日担当ステーション毎に役割を固定にするか、ローテーションにするかを定めることとした
 - A 架電担当（24時間：神奈川県との連絡調整）
 - B 架電担当（9時～18時）
 - C 訪問看護担当（24時間）
 - D 訪問看護担当（24時間）
- ※Aは、医師会訪問看護ステーションが行い
B・C・Dの役割を9ステーションで担っている

輪番医師

- かながわモデル担当医師 ⇒ 平塚市医師会理事1名
- 訪問診療医師4人・・・7月～8月
- 第5派により対応しきれず・・・9月から医師9人で担当

平塚市は輪番医制（かかりつけ医のマッチングなし）

- オンライン診療をメインとし往診はしない
- 薬の処方、入院判断と調整、在宅療養終了の判断
- 通常業務を行いながら輪番医を兼任している

ミーティング & コミュニケーション

- <メンバー>**
- ・ 神奈川県担当職員
 - ・ 保健福祉事務所（7人）
 - ・ 平塚市医師会輪番担当医師（9人）
 - ・ 訪問看護ステーション10か所（34人）

※希望者の参加

- <内 容>**
- ・ 神奈川県からの報告
 - ・ 業務運営相談 …等々

- <開催日>**
- ・ 7月 ⇒ 毎週水曜日/18時半から1~2時間
 - ・ 8~9月 ⇒ 2週間ごと
 - ・ 10月 ⇒ 月1回
 - ・ 第5波の振り返り（集約中）

療養者の声

- ・ 分からないことが多い中で、非常に親身に対応してくれて、心強かった
- ・ 相談できる人がおらず、不安な部分もあったが、いろいろとお話も聞いて下さり、精神的にも心強かった
- ・ 患者の自宅にまで来てくれるとは思ってなかったので、実際に看てもらって安心につながった
- ・ 体調がすぐれない時、すぐに解熱剤を届けていただき、大変助かった
- ・ 家族みんなの健康管理をして頂きとてもありがたかった
- ・ 長期間のサポートとなり迷惑をおかけしたが本当に安心できた
- ・ 体調不良で暴言を吐いたこと等をわび、感謝の言葉を頂けた
- ・ 迷惑をかけて申し訳なかったことや看護師さんたちも体に気を付けてくださいと激励の言葉も頂けた

私感（関係者の皆様申し訳ありません）

今までの 地域連携

<医師会と医師会訪問看護ステーション>

- ・ 訪問看護事業で連携しているが、医師会立だから特別な関係がとれていると語れない希薄な関係性

<医師会訪問看護ステーションと地域ステーション>

- ・ 地域ステーション会議はあるが、ステーション間で積極的な関わりがない繋がり

<平塚市地域訪問看護ステーションと平塚市保健福祉事務所>

- ・ 保健福祉事業の各種会議で一緒に考え意見交換するが通常業務で、あまり関わる機会が少なかった

<平塚市地域訪問看護ステーションと神奈川県行政>

- ・ 訪問看護師育成事業、訪問看護師倍増計画支援等で全体的な関わりはあるが、個ステーションとしては遠い存在

<平塚市地域訪問看護ステーションと薬剤師会>

- ・ 薬剤師会は介護保険の居宅療養管理指導の介入に関わっているも担当者会議への参加もなく顔の見えない関係

進化した 地域連携

【 地域療養「かながわモデル」で協働!! 】

医師・薬剤師・保健師・看護師等が⇒自分たちが行うべき仕事をしっかりおこなない役割を担うことで、お互いの信頼感を育てることができた。

信頼感からチームとしての安心感が生まれ、コロナ療養者の自宅療養を「チームで守っている」一体感につながった。

その結果⇒一層、相談や確認等のスピードも上がり、連絡も取りやすい関係に進化した。

地域連携 の発展

【関係団体の協力 = コミュニケーション力】

- ・ 「実現させなくては、ならない！」との強い思いの一致
- ・ 「協力がなくては出来ないを伝える」ことを発信する力
- ・ 「継続可能なスタイルに落とし込む」 構築力
- ・ 「効果を高め合う確認し合う 認め合う」 団結力
- ・ 「各関係団体の連携と実践するチームワーク」現場力
- ・ 「これからの未来がみえる理想や関係性」 想像力

ご清聴
ありがとうございました

民間の力

訪問看護の力

医師の力

行政の力

保健師の力

薬剤師の力

地域の底力



神奈川県PRキャラクター
かながわキンタロー